

学 校 名	山形市立高楯中学校 山形市大字中里 3 8 番地 TEL 6 8 6 - 6 0 2 9 FAX 6 8 6 - 4 1 8 5	校 長	相田 修
		研究主任	有路 智子
研 究 主 題	自ら課題を解決しようとする能力の育成 (3 年 次) 主体的な学びの姿を求めて		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	本校は豊かな自然環境に恵まれ、その中で伸び伸びと育った素直で純朴な生徒が多い。また、どの学年も 9 0 名前後の人数で、お互いによくわかり合える関係の中で和やかに生活しており、生徒会活動や部活動などを通して、全校で挨拶運動や合唱、応援に前向きに取り組んできた。学習についても真面目に落ち着いた態度で臨んでいるが、自ら調べ解決しようとする意欲や自己主張力、質問力、表現力は不足している。 こうした生徒の実態を踏まえ、本校のめざす生徒像「知識・判断力・責任・積極的行動」にせまる手立てを授業の中で考え、実践していきたいと考え、3 ヶ年の計画で本主題を設定した。三年次となる本年度は、「課題解決に向かって主体的に取り組む授業展開の工夫」を研究の柱として進めていきたい。 生徒の主体性を日常の授業の中で育てる実践をめざしたい。		
研 究 の 目 標	1 教科指導の中で、生徒の学習意欲を喚起し、自ら課題を求めて解決しようとする授業展開の工夫を図る。 2 総合学習の時間を通して、生徒自身が課題解決のために学習方法を工夫しながら取り組み、達成する喜びを味わうことができるようにする。 生徒は 「教えてもらう(受け身)」から 「学びを拓げていく(主体的姿勢)」へ向かって 教師は 「教える」から 「学びを追求したくなる授業作り」へ向かって		
研 究 の 仮 説	1 学びのねらいを明確にし、課題解決的な授業展開を工夫することで、生徒の意欲が高まり、主体的に学習に取り組めるようになるのではないかと。 2 地域素材を生かした総合的な学習の時間の中で、教師が支援方法を工夫することにより、生徒自身が課題をつかみ、その解決に至る学習方法を見つけだすことができるようになるのではないかと。		

研究の内容と方法	本年度は、次の二つの研究部のいずれかに全員が所属し、研究を進めていく。 1 教科学習研究部 生徒自身が目的意識を持って課題解決に向かえるような授業改善を図る。 教科研究テ - マの見直しをし、具体的な改善策を検討する。 各時間毎の授業の課題を明確にする。 課題解決に導くための支援の工夫をする。 T・T指導のあり方を工夫する。（数学科、英語科） 確かな学力の定着をねらいとして必修教科と選択教科でそれぞれ付けなければならない力を明確にする。 教科の絶対評価規準および規準の検討を行う。 2 総合学習研究部 社会に目を向けて課題を発見しその解決に工夫して取り組むためのや指導のあり方を探る。 総合テ - マに基づいた個人テ - マも探させ方について研究する。 課題解決までの支援の方法、支援体制作りをする。 地域講師の人材活用リスト、諸調査および体験場所のリスト作りを進める 学習成果の発表の仕方と場の設定を工夫する。 評価のあり方について検討する。
研究の計画	以下の内容で研究推進委員会、および校内研修会を開き、研究を深めていく。 4月 研究組織、構想、年間計画の検討。 絶対評価観点、評価規準、評価基準の作成と検討。 5月 各教科テ - マおよび研究実践計画の発表。 6月 授業研究会についての事前検討会 7月11日 第1回授業研究会 1年音楽 - 須藤由美子教諭 2年選択社会 - 鈴木秀人教諭 8月 1学期の研究の成果と課題のまとめ、2学期の研究の進め方の検討 9月 選択教科の実践経過の確認 10月 校内授業参観を受けての授業作りの話し合い。授業研究会の事前検討会 11月26日 第2回授業研究会 1年道德 - 高橋美穂教諭 3年学活 - 植松留美教諭 12月25日 研修講話 2学期の研究の成果と課題のまとめ。研究紀要について。 1月 各教科の学習指導の事例の発表と話し合い。 2月 各教科の実践のまとめ（研究紀要の作成） 3月 年間の研究の反省と課題のまとめ。 各教科から次年度に向けての提案事項を出す。